

# シェルと空間構造に関する夏季セミナー2001のご案内

今年も恒例の夏季セミナーを飯綱高原にて開催いたします。日頃の研究成果を発表し学術交流を深める場として、是非ご参加下さい。

## 記

開催期日： 2001年8月6日(月)～8月9日(木)

開催場所： アゼイリア飯綱  
〒380-0888  
長野県長野市飯綱高原 2741-79  
TEL. 026-239-2522  
FAX. 026-239-2626  
HP <http://www.kg.to/azeiria/>

主催： ・金沢工業大学工学部建築学科 高山研究室  
・名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻 大森研究室  
・法政大学工学部建築学科 吉田研究室  
・東京大学生産技術研究所第5部 川口研究室(幹事)

日程：  
8月6日(月) 昼食 Session 1 夕食・宿泊  
8月7日(火) 朝食 Session 2, 3 昼食 Session 4 夕食・宿泊  
8月8日(水) 朝食 Session 5 昼食 Special 懇親会・宿泊  
8月9日(木) 朝食 解散

## 問い合わせ先

〒153-8505  
東京都目黒区駒場 4-6-1  
東京大学生産技術研究所 第5部  
川口研究室 大矢俊治  
TEL. 03-5452-6403 FAX. 03-5452-6405  
E-mail [ohya@iis.u-tokyo.ac.jp](mailto:ohya@iis.u-tokyo.ac.jp)

# 発表プログラム

1 題 2 0 分 ( 質疑応答含む )

		12:30	13:30		17:00
8月6日 (月)		昼食			
	9:00	10:40	12:00	13:00	17:00
8月7日 (火)			昼食		
	9:00		12:00	13:00	18:00
8月8日 (水)		昼食		SPECIAL SESSION	懇親会
8月9日 (木)	朝食後 解散				

\* 発表に使用できるもの

- ・ P C プロジェクター

Windows PC の場合 : CD-ROM ( フロッピー不可 ) でデータを持参すれば  
PowerPoint 2000 でプレゼンテーションできます。

Mac PC の場合 : P C を持参してください。

- ・ O H P プロジェクター
- ・ V H S ビデオ

\* レジュメは 4 0 部 ( 両面コピー ) 用意してください。

\* 各発表の冒頭 3 分程度 , 英語で概略説明を行ってください。

( 英語しか判らない人が複数います。 )

\* 学生は 1 人 2 回以上必ず質問をして下さい。

\* 3 日目にハイキングが企画されますので ( 天候による ) 歩きやすい靴を持参してください。

## 動的問題

志田 祐一	最適制御による無反射境界
森 太平	杭基礎による地盤と建物の動的相互作用
吉田 長行	地盤解析用離散モデルの開発
西田 明美	張力安定トラスドームの実大振動・波動実験（その1 実験概要）
劉 鵬	張力安定トラスドームの実大振動・波動実験（その2 実験結果速報）
中澤 祥二	空間構造物の耐震性能評価について
山田 耕司	サイン波1波による1質点系の最大地震変位応答予測に関する研究
萩原 伸幸	強制振動系のエネルギー定位
上村 大作	非保存性外力を受ける弾性系の動的安定解析

## 有限要素法，他

早稲倉 章悟	新素材を用いた新しい構造システムの開発に関する研究（仮）
加藤 求	木造格子屋根の製作と解析
山田 豊三	アーチ構造における損傷制御設計の適用に関する研究
鈴木 知晃	構造解析におけるパラレルコンピューティングの利用
大屋 誠	クランクを有する鉄筋コンクリート耐震壁の有限要素解析（仮）

## R C シェル，R C 構造

松田 知浩	トポグラフィシェルの力学性状に関する実験的研究 （稜線部での応力集中と補強の効果について）
泉 紀充	トポグラフィシェルの力学性状に関する実験的研究 （パーツ実験と施工時のたわみについて）
李 炯勲	プレキャスト・ポストテンション工法を応用したシェル構造に関する研究 （ビデオ発表）
高山 誠	正方形平面を有する4点支持鉄筋コンクリートシェルの力学性状に及ぼす シェル形状の影響

## テンション構造

川口 健一	テンション構造2題
呂 振宇	テンセグリティドームの建設（構造計算）
大矢 俊治	テンセグリティドームの建設（張力測定）
手島 嘉隆	張力安定トラスドーム実大実験（張力測定試験について）
Terrence Seah	Analyzing Folding Tensegrity Structures using General Inverse Theory
呉 明児	テンション材により補剛された圧縮材の座屈性状に関する研究
Jausz Rebielak	New types of structural systems proposed for cable domes
藤原 啓晴	ケーブルドームに関する基礎的研究
小林 充	PVDFを用いた膜の歪測定
呂 品琦	単軸引張りを受ける膜材のしわ発生及びその性状に関する実験的研究

## 最適化，形態解析，他

王 平	The improvement's history of ESO method
宮地 浩史	複数荷重対応の拡張 ESO 法に関する研究
崔 昌禹	拡張 ESO 法の適用
坂 敏秀	形態解析に関する最近の研究動向（仮）
伊達 隆一郎	座標関数を用いた複合ケーブル構造の形態解析
松山 和彦	自律分散有限要素法を用いた複合ケーブル構造の導入張力決定解析
河村 拓昌	GA による位相最適化（仮）
山本 憲司	座屈荷重を目的関数とする曲面構造の形状最適化
大森 博司	題目未定

## 参加スケジュール

	6日			7日				8日				9日	送迎バス (長野着予定)
	昼食	夕食	宿泊	朝食	昼食	夕食	宿泊	朝食	昼食	懇親会	宿泊	朝食	
吉田 長行													
志田 祐一													
鈴木 知晃													
森 太平													
高山 誠													×
松田 知浩													×
泉 紀充													×
鈴木 直哉													×
大森 博司													(10:51)
呉 明児													(10:51)
崔 昌禹													×
河村 拓昌													×
宮地 浩史													×
早稲倉 章悟													×
王 平													×
山田 耕司													×
山田 豊三													×
萩原 伸幸													×
山本 憲司													(11:00)
上村 大作													(11:00)
伊達 隆一郎													(11:00)
松山 和彦													(11:00)
中澤 祥二													(11:53)
大屋 誠													(11:00)
坂 敏秀													
川口 健一													(11:19)
西田 明美													(11:13)
大矢 俊治													(11:19)
Jausz Rebielak													(11:19)
呂 品琦													(11:19)
李 炯勳													
劉 鵬													(11:19)
小林 充													(11:19)
呂 振宇													(11:19)
加藤 求													(11:19)
手島 嘉隆													(11:19)
藤原 啓晴													(11:19)
Terrence Seah													(11:19)

吉田 長行  
法政大学工学部建築学科  
nyoshida@k.hosei.ac.jp

志田 祐一  
法政大学吉田研究室 (M2)  
i00r5227@k.hosei.ac.jp

鈴木 知晃  
法政大学吉田研究室 (M1)  
i01r5228@k.hosei.ac.jp

森 太平  
法政大学吉田研究室 (M1)  
i01r5253@k.hosei.ac.jp

高山 誠  
金沢工業大学  
takayama@neptune.kanazawa-it.ac.jp

松田 知浩  
金沢工業大学大学院生 (M2)

泉 紀充  
金沢工業大学大学院生 (M1)

鈴木 直哉  
金沢工業大学 (学部4年生)

大森 博司  
名古屋大学  
hero@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

呉 明児  
名古屋大学  
wu@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

崔 昌禹  
名古屋大学 (D3)  
cui@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

河村 拓昌  
名古屋大学 (D2)  
kawamura@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

宮地 浩史  
名古屋大学 (M2)  
miyachi@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

早稲倉 章悟  
名古屋大学 (M1)  
wasekura@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

王 平  
名古屋大学 (M1)  
wang@dali.nuac.nagoya-u.ac.jp

山田 耕司  
豊田高専  
kyamada@toyota-ct.ac.jp

山田 豊三  
豊田高専  
toyozo\_y@hotmail.com

萩原 伸幸  
大同工業大学 建築学科  
hagiwara@daiido-it.ac.jp

山本 憲司  
鹿児島大学工学部建築学科  
yamamoto@aae.kagoshima-u.ac.jp

上村 大作  
鹿児島大学大学院理工学研究科 建築学専攻 (M1)  
kamimura@aae.kagoshima-u.ac.jp

伊達 隆一郎  
鹿児島大学大学院理工学研究科 建築学専攻 (M1)  
rdate@aae.kagoshima-u.ac.jp

松山 和彦  
鹿児島大学大学院理工学研究科 建築学専攻 (M2)  
matsuyama@aae.kagoshima-u.ac.jp

中澤 祥二  
豊橋技術科学大学 建設工学系  
nakazawa@st.tutrp.tut.ac.jp

大屋 誠  
豊橋技術科学大学  
ohya@st.tutrp.tut.ac.jp

坂 敏秀  
東京大学新領域創成科学研究科  
sakacci@nasl.t.u-tokyo.ac.jp

川口 健一  
東京大学生産技術研究所  
kawaken@iis.u-tokyo.ac.jp

西田 明美  
東京大学生産技術研究所  
pinky@iis.u-tokyo.ac.jp

大矢 俊治  
東京大学生産技術研究所  
ohya@iis.u-tokyo.ac.jp

JAUSZ REBIELAK  
東京大学生産技術研究所 研究員  
rebielak@iis.u-tokyo.ac.jp

呂 品琦  
東京大学大学院  
lupinqi@iis.u-tokyo.ac.jp

李 炯勳  
東京大学大学院 (D3)  
leehh@iis.u-tokyo.ac.jp

劉 鵬  
東京大学大学院 (D2)  
nest@iis.u-tokyo.ac.jp

小林 充  
東京大学大学院 (D1)  
kobayash@iis.u-tokyo.ac.jp

呂 振宇  
東京大学大学院 (D1)  
luzy@iis.u-tokyo.ac.jp

加藤 求  
東京大学大学院 (M2)  
motomu@iis.u-tokyo.ac.jp

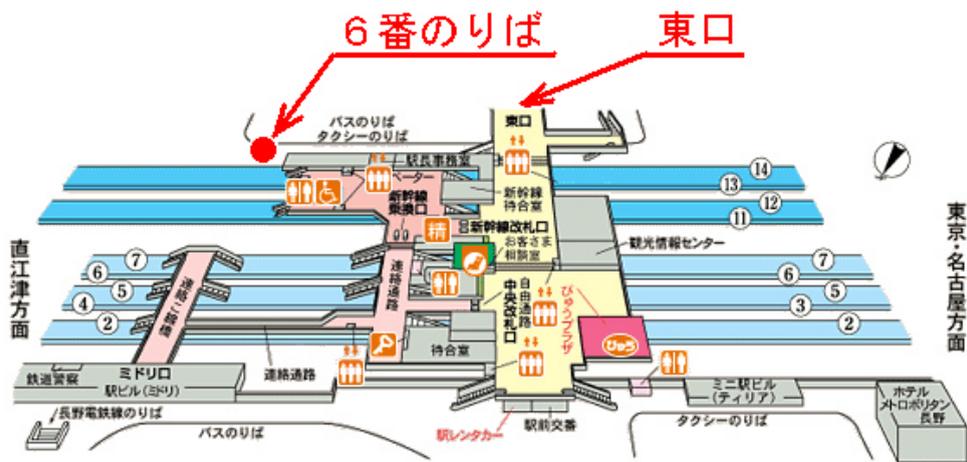
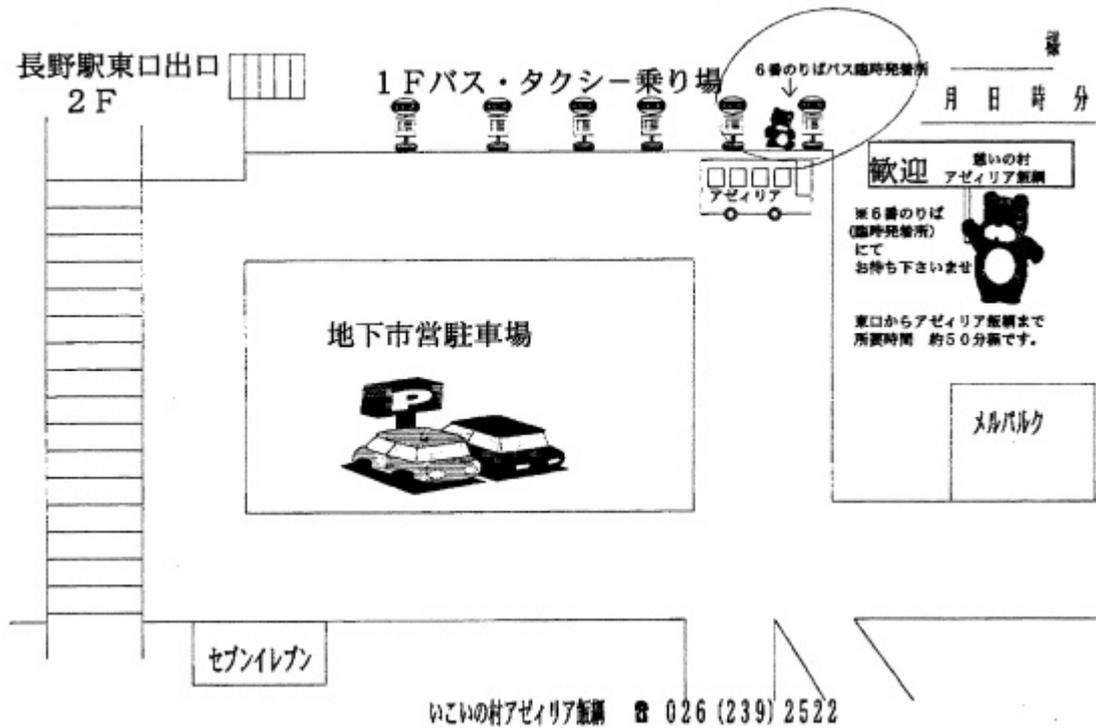
手島 嘉隆  
東京大学大学院 (M1)  
teshima@iis.u-tokyo.ac.jp

藤原 啓晴  
東京大学大学院 (M1)  
fujiwara@iis.u-tokyo.ac.jp

Terrence Seah  
東京大学大学院 (研究生)  
tseah@iis.u-tokyo.ac.jp

# 送迎バスのご案内

8月6日(月)は長野駅から会場までの送迎バスを運行します。ご利用の方は、長野駅東口バス・タクシー乗り場の6番乗り場に集合してください。12時に出発します。



## 番線のご案内

- ②④～⑦ 信越線(下り)・飯山線
- ②③⑤～⑦ 信越線(上り)・中央線・しなの鉄道
- ⑪～⑭ 長野新幹線

※③・④番線は同一ホームで上り寄りが③番線、下り寄りが④番線となっています。

## 2001 年夏ゼミメモ

2001 年 8 月 10 日 川口

1. 期間 2001 年 8 月 6 日(月)～9 日(木)
2. いこいの村アゼリア飯綱
3. 山登り  
8 月 9 日(木) 8:00 出発 (朝食 7:30)  
飯綱班 24 名(高山・吉田引率)  
戸隠班 7 名(大森・川口引率)
4. 来年(2002 年)は建築学会大会が 8 月 2 日より金沢工大で開催されるため夏ゼミは金沢で引き続き行う。幹事は大森研究室に代わり高山研究室が務める。  
アゼリア飯綱は近年割高感があるので、2002 年から、幹事研究室が割安な開催場所を探すこととする。幹事研究室の近くで開催することで、幹事研究室の旅費負担を軽減できる。

幹事ローテーション：

1993 年 高山, 1994 年 吉田(広大), 1995 年 金井, 1996 年 半谷,  
1997 年 山田(豊田), 1998 年 大森(萩原), 1999 年 高山, 2000 年 吉田,  
2001 年 川口, 2002 年 高山(大森?と交替), 2003 年 大森?(山田?),  
2004 年 本間(鹿児島)?, 山田(豊田)?, 萩原?, …

### 5. 2001 年夏ゼミの会計備忘録 (追加徴収額について)

当初, 3 泊で一人当たり 35,000 円, 2 泊で 25,000 円の会費を設定していたが、2 日目の段階で、最終的に宿泊で約 95,000 円の不足分が発生する見込みとなった(最終日の酒代を除く)。

$$33 \text{ 人} \times 3 \text{ 泊} = 99 \text{ 泊} + 4 \text{ 人} \times 2 \text{ 泊} = 8 \text{ 泊} = \text{合計 } 107 \text{ 泊}$$
$$95,000 \text{ 円} / 107 \text{ 泊} = 888 \text{ 円}$$

$$\text{最終日の飲み代見込み額 } 63,000 \text{ (生ビール大 } \times 40 + \text{ 瓶ビール } \times 40 \text{ 本)}$$
$$63,000 / 33 \text{ 人} = 1,910 \text{ 円} \approx 2,000 \text{ 円}$$

一人当たり追徴額

$$2 \text{ 泊の人} : 888 \text{ 円} \times 2 = 1,800$$

$$3 \text{ 泊の人} : 888 \text{ 円} \times 3 + 2,000 \text{ 円} \approx 4,700 \text{ 円} \rightarrow 4,500 \text{ 円}$$

**結局一人当たりの夏ゼミ参加費は、2 泊の人 26,800 円  
3 泊の人 39,500 円**

となった。

ビールは外にアゼリアから 10 本の差し入れがあった。長野オリンピック以降、施設は良くなったが、年々割高になっている。